

# 2015年3月期 決算説明会

2015年5月14日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 山下 正弘



- 2015年3月期 連結決算の概況
- 主力製品の取り組みについて
- 研究開発パイプラインの状況
- 2016年3月期 連結業績予想と配当

# 2015年3月期 連結決算の概況

# 2015年3月期 連結決算の概観

(単位:億円)

	14年3月期 実績	15年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,114	<b>1,131</b>	+17	+1.5	+14
営業利益	176	<b>147</b>	-29	-16.3	+9
経常利益	183	<b>155</b>	-28	-15.3	+12
当期純利益	120	<b>121</b>	+1	+0.3	+5

# セグメントの売上高の増減(連結)

(単位:億円)

	14年3月期 実績	15年3月期 実績	対前年		対予想	
			増減額	増減率(%)	増減額	
売上高	1,114	<b>1,131</b>	+17	+1.5	+14	
医薬品事業	1,097	<b>1,118</b>	+21	+1.9	+18	
	新医薬品	935	<b>921</b>	-14	-1.5	+13
	国内	917	<b>911</b>	-6	-0.6	+14
	海外	18	<b>10</b>	-8	-44.2	0
	後発医薬品	120	<b>155</b>	+35	+29.1	+5
一般用医薬品他	42	<b>42</b>	0	+0.3	0	
ヘルスケア(スキンケア)事業	17	<b>13</b>	-4	-21.6	-3	

	対前年	対予想	売上高の増減のポイント
新医薬品	-14	+13	<b>【国内】</b> ▶フルティフォーム、キプレスの伸長 ▶ムコダイン、ペンタサ等の売上減少(薬価改定、後発医薬品の使用促進策の影響等) <b>【海外】</b> ▶ガチフロキサシンの売上減少(米国での後発品発売の影響) (現地売上:14年3月期 実績\$61MM、15年3月期 実績\$32MM)
後発医薬品	+35	+5	▶自販および他社受託ビジネスによる売上増

# 損益の概要(連結)

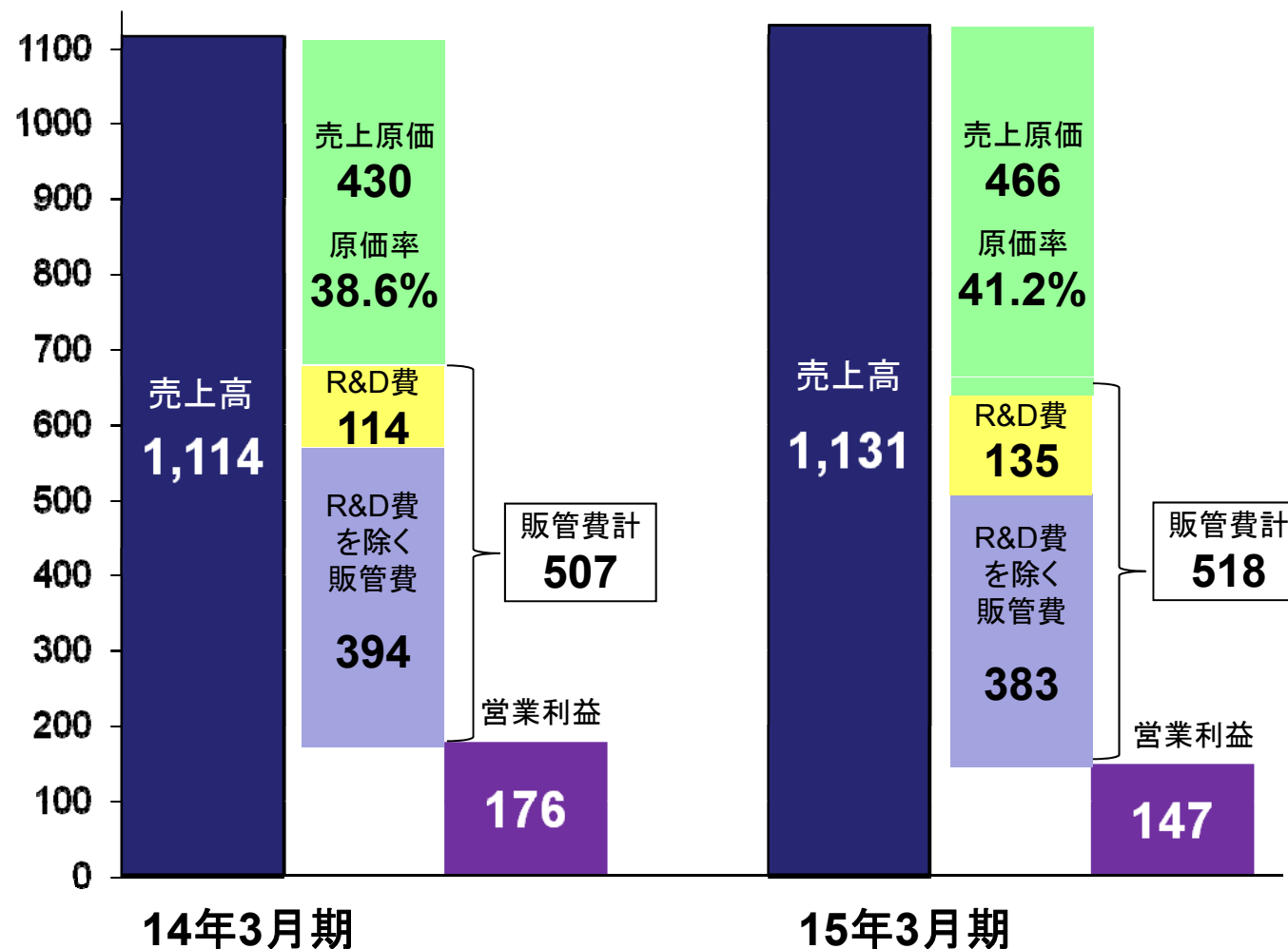
(単位:億円)

	14年3月期 実績	15年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,114	<b>1,131</b>	+17	+1.5	+14
売上原価	430	<b>466</b>	+36	+8.2	—
販売費及び一般管理費	507	<b>518</b>	+11	+2.1	—
R&D費	114	<b>135</b>	+21	+19.0	—1
販管費(R&D費除く)	394	<b>383</b>	—11	—2.8	—
営業利益	176	<b>147</b>	—29	—16.3	+9
経常利益	183	<b>155</b>	—28	—15.3	+12
当期純利益	120	<b>121</b>	+1	+0.3	+5

	対前年	対予想	利益の増減のポイント
営業利益	—29	+9	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶売上総利益 : 対前年—19億円 (売上は17億円増加したが、原価率が2.6%上昇し、原価額が36億円増加) ・原価率上昇要因 : 薬価改定、製品売上構成の変化(含む後発医薬品の売上ウェイト上昇)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>▶R&amp;D費 : 対前年+21億円 (KRP-114V契約一時金、開発パイプラインの進展)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>▶販管費(R&amp;D費除く) : 対前年—11億円 (販売費等の減少)</li> </ul>
当期純利益	+1	+5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶特別利益 : 杏林製薬の旧本社ビルの土地・建物の譲渡に関わる利益 約45億円を計上</li> <li>▶特別損失 : 杏林製薬の研究開発拠点の集約に伴う創薬研究所に関わる減損損失等 約24億円を計上</li> </ul>

# 2015年3月期 業績のポイント(対前年)

(単位:億円)



## 【ポイント】

- 売上高は前年比17億円増
  - ・フルティフォーム、キプレスの増加
  - ・長期収載品の売上減少
  - ・後発医薬品の売上増加
- 売上原価額は36億円増  
(売上原価率は2.6%上昇)
  - ・薬価改定の影響
  - ・製品売上構成の変化  
(含む後発医薬品の売上ウエイト上昇)
- 売上総利益は前年比19億円減
- 販管費は前年比11億円増
  - ・R&D費は21億円増
  - ・販管費(R&D費除く)は11億円減
- 営業利益は前年比29億円減

# 2015年3月期 主力製品の売上状況

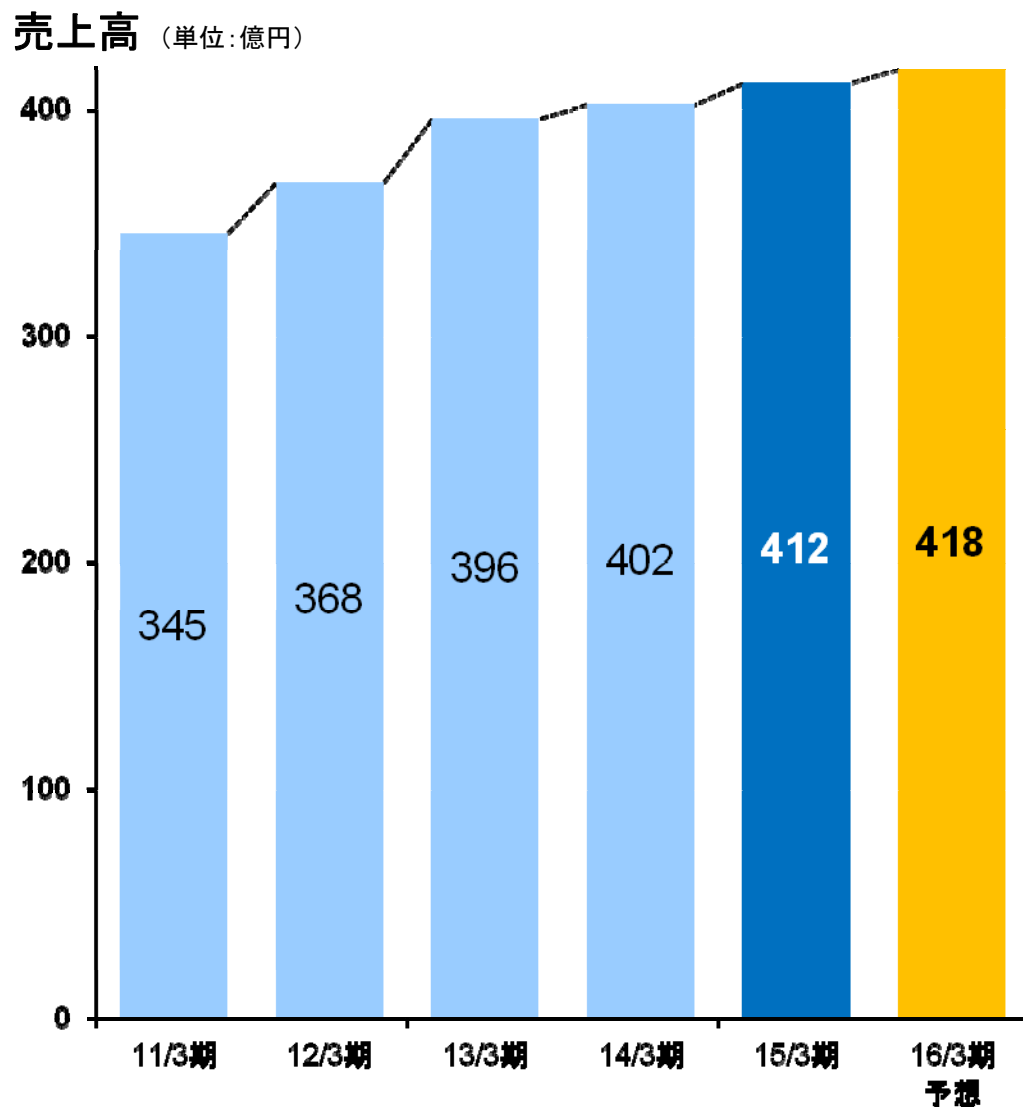
(単位:億円)

	14年3月期 実績	15年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
キプレス	402	<b>412</b>	+10	+2.7	+10
フルティフォーム	6	<b>36</b>	+30	+518.9	-3
ウリトス	81	<b>73</b>	-8	-9.5	-2
ムコダイン	184	<b>140</b>	-44	-23.7	+2
ペンタサ	186	<b>172</b>	-14	-7.4	+5



## 主力製品の取り組みについて

## ■新薬群 キプレス(気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)



### ■15年3月期(2014年度)の状況

#### ●ロイコトリエン拮抗剤市場:約1%縮小

1,274億円(14年3月MAT) ⇒ 1,262億円(15年3月MAT) 注1

#### ●キプレスの売上シェア:

36.0%(14年3月MAT) ⇒ 37.6%(15年3月MAT) 注2

### ■16年3月期(2015年度)の取り組み

#### ●アレルギー性鼻炎での処方拡大

・アレルギー性鼻炎(通年性、季節性)のベース薬としての  
ポジショニング確立

#### ●喘息患者さんへの更なる処方促進

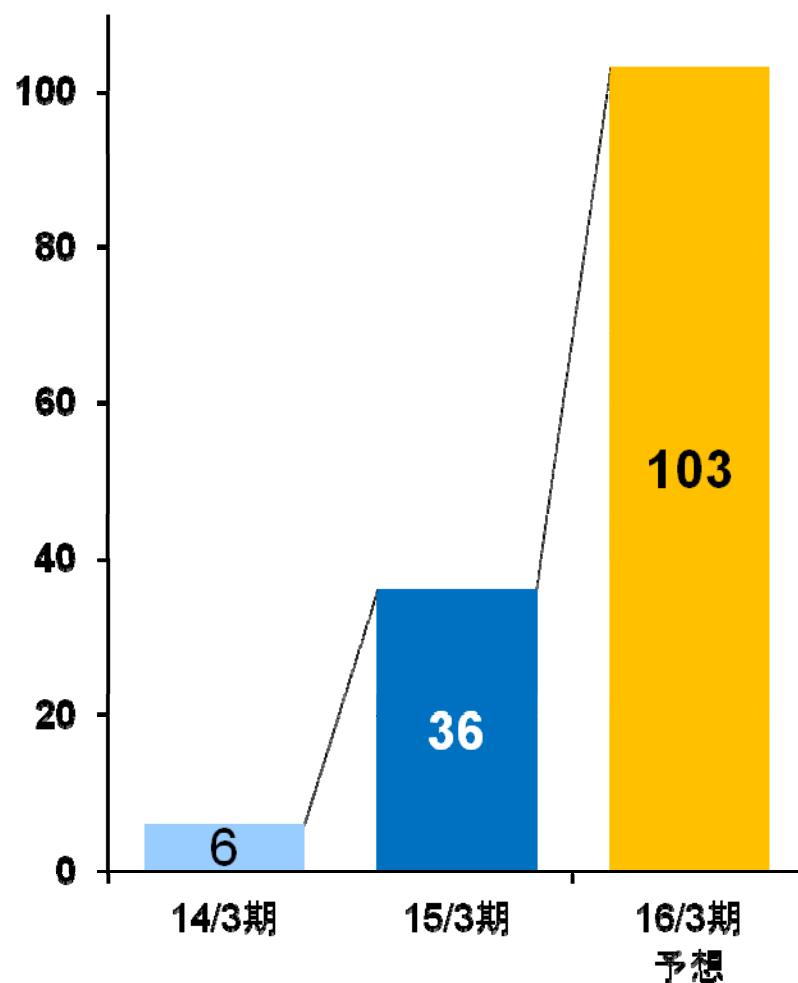
・フルティフォームと併せた処方提案

#### ●ライフサイクルマネジメントの検討

注1,2(出典: Copyright 2015 IMSヘルス IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

## ■新薬群 フルティフォーム(喘息治療配合剤)

売上高 (単位:億円)



### ■15年3月期(2014年度)の状況

#### ●ICS/LABA配合剤 : 約3.3%拡大

941億円(14年3月MAT) ⇒ 971億円(15年3月MAT) 注1

### ■16年3月期(2015年度)の取り組み

#### ●コントロール不十分な喘息患者さんへの処方推進

※長期管理薬を服用している患者さんの60%~80%はコントロール不十分

#### ●エアゾール製剤(pMDI)の有用性の理解促進

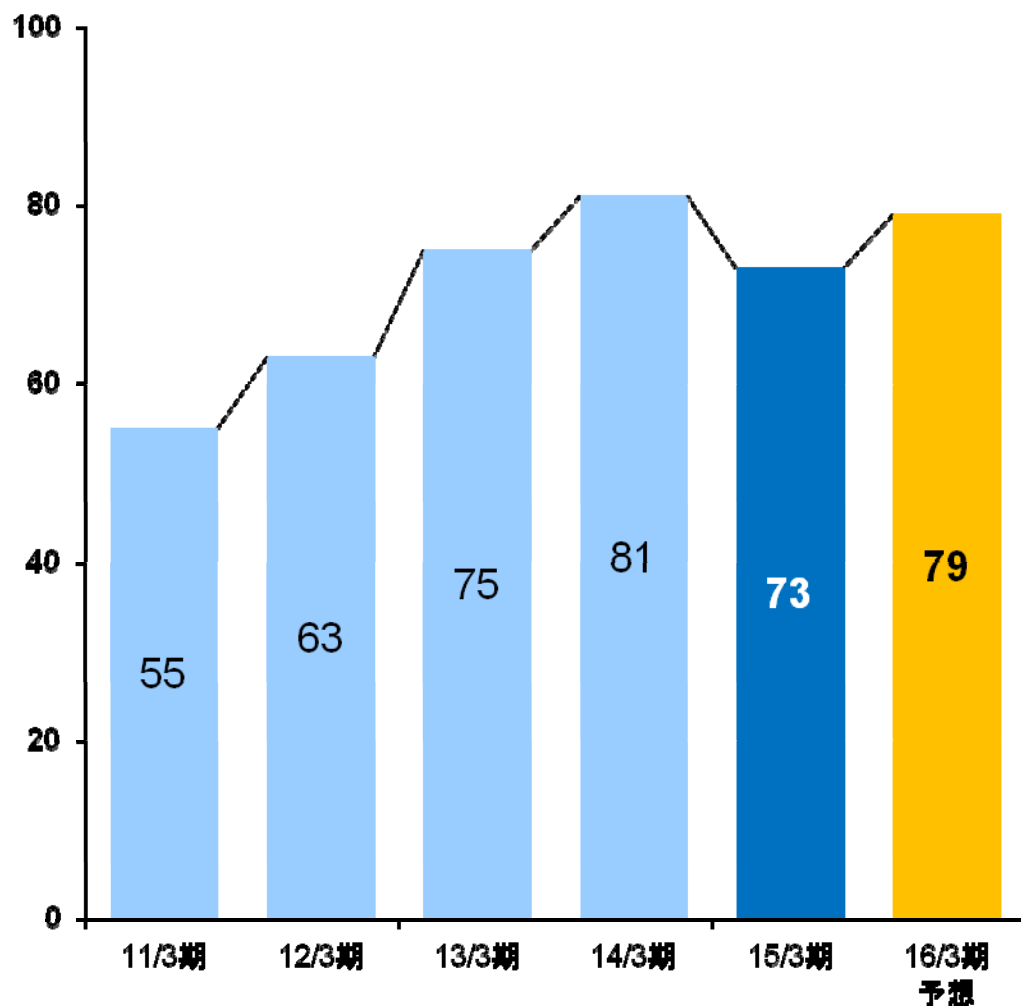
・pMDI: 加圧噴霧式定量吸入器 (pressurized metered-dose inhaler)  
吸入力に関わらず、簡単な操作での服薬ができる

#### ●30日製剤の処方促進

注1(出典: Copyright 2015 IMSヘルス IMS -JPMをもとに作成 無断転載禁止)

## ■新薬群 ウリトス(過活動膀胱治療剤)

売上高 (単位:億円)



### ■15年3月期(2014年度)の状況

#### ●OAB<sup>※1</sup>市場 :約3.6%拡大

779億円(14年3月MAT) ⇒ 806億円(15年3月MAT) 注1

#### ●ウリトスの売上シェア

10.9%(14年3月MAT) ⇒ 10.2%(15年3月MAT) 注2

### ■16年3月期(2015年度)の取り組み

#### ●潜在市場の掘り起こし

・受診率 約30%(2014年度)

#### ●夜間頻尿への処方促進

・1日2回投与の臨床的意義の浸透等

#### ●BPH<sup>※2</sup>を有するOAB<sup>※1</sup>患者さんへの処方提案

注1,2(出典: Copyright 2015 IMSヘルス IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

※1 OAB: 過活動膀胱、※2 BPH: 前立腺肥大症

【開発状況】

**2015年3月 製造販売承認を取得**

【製品情報】

1. 製品名 : エクリラ®400µgジェヌエア®30吸入用
2. 一般名 : アクリジニウム臭化物
3. 効能効果 : 慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎、肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解
4. 用法用量 : 通常、成人には1回1吸入(アクリジニウム臭化物として400µg)を1日2回吸入投与する
5. 特徴 : ①1日2回投与で終日呼吸機能を改善する。また、臨床症状およびQOLを改善し、増悪を抑制する。  
②ジェヌエア®(吸入器)は操作が簡単で、正しく吸入できたことを確認できる。  
③血中で活性のない代謝物に速やかに分解される。

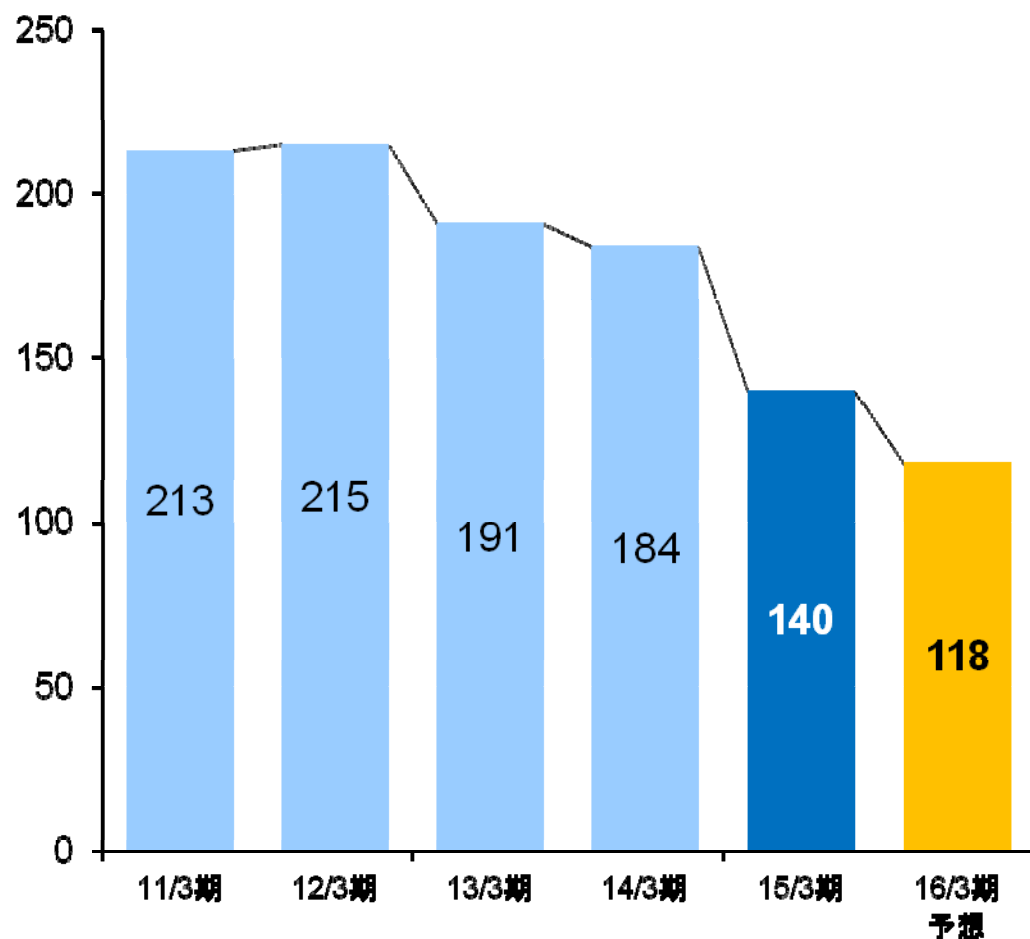


【今後の予定】

**2015年5月下旬 : 薬価収載後、発売予定**

## ■先発品群 ムコダイン(気道粘液修復・粘膜正常化剤)

売上高 (単位:億円)



### ■15年3月期(2014年度)の状況

#### ●去痰剤市場 :約11%縮小

435億円(14年3月MAT) ⇒ 388億円(15年3月MAT) 注1

#### ●ムコダインの売上シェア

46.2%(14年3月MAT) ⇒ 41.4%(15年3月MAT) 注2

ジェネリック(カルボシステイン)のシェア

7.4%(14年3月MAT) ⇒ 11.7%(15年3月MAT) 注3

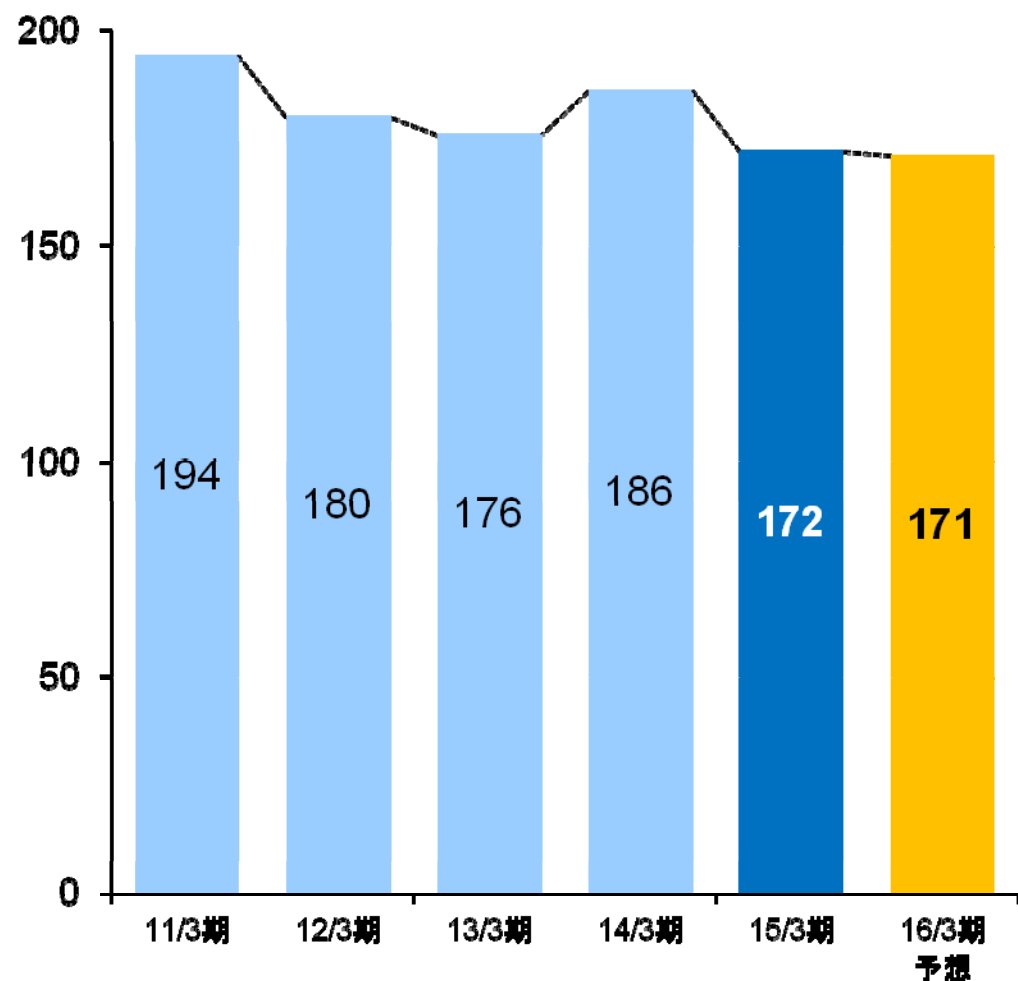
### ■16年3月期(2015年度)の取り組み

#### ●「DS50%」の処方促進等

注1,2,3 (出典: Copyright 2015 IMSヘルス IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

## ■先発品群 ペンタサ(潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)

売上高 (単位: 億円)



### ■15年3月期(2014年度)の状況

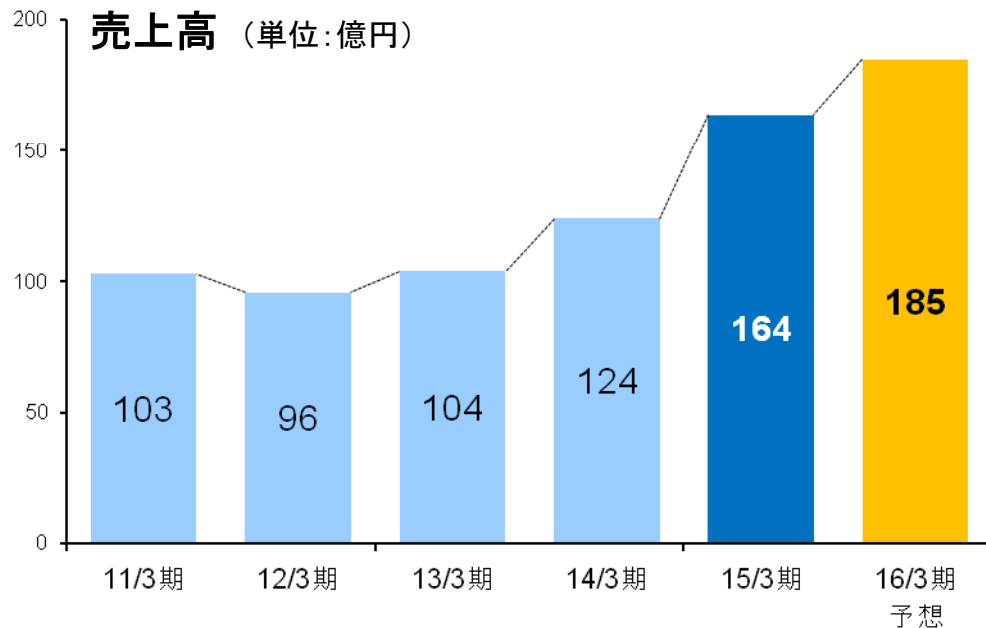
- 腸内抗炎症剤市場: 約2%拡大  
379億円(14年3月MAT) ⇒ 386億円(15年3月MAT) 注1
- ペンタサの売上シェア  
52.7%(14年3月MAT) ⇒ 50.1%(15年3月MAT) 注2  
ジェネリックのシェア  
2.0%(14年3月MAT) ⇒ 3.1%(15年3月MAT) 注3

### ■16年3月期(2015年度)の取り組み

- 局所製剤(坐剤・注腸)の市場への浸透
- ライフサイクルマネジメントの検討

注1,2,3(出典: Copyright 2015 IMSヘルス IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

## ■後発品群 キョーリン リメディオの状況



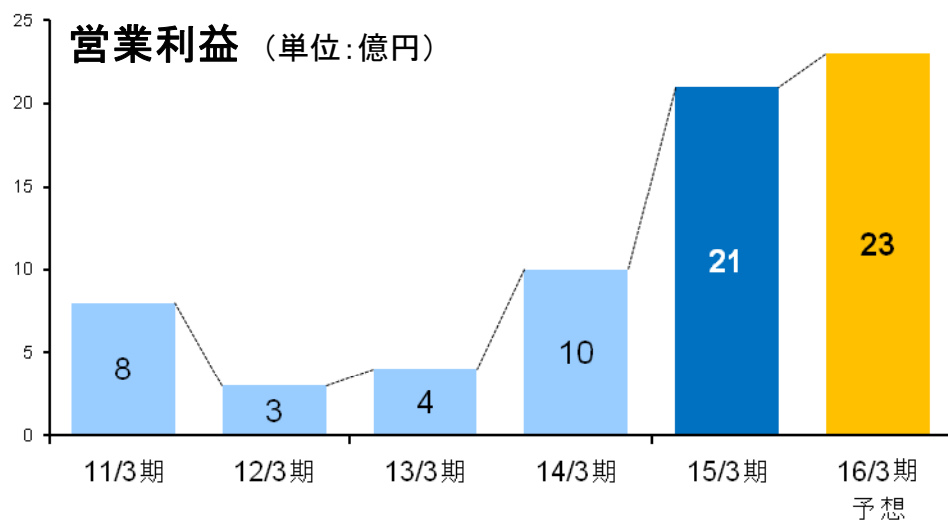
### ■15年3月期(2014年度)の状況

- 売上高 : 前年比+40億円、+ 32.8%
- 営業利益 : 前年比+11億円、+115.5%
- ・自販の売上増加(新規追補品等が順調に進展)
- ・他社受託ビジネスの売上増加
- ・工場稼働率上昇による原価率の改善

### ■16年3月期(2015年度)の取り組み

- ✓アライアンスの推進  
共同開発の促進、受託ビジネスの拡大
- ✓グループ内連携の強化  
杏林製薬との販売面での連携強化、グループ生産体制の再構築

- 売上高 : 前年比+21億円、+12.9%
- 営業利益 : 前年比+2億円、+11.0%
- ・重点品、新規追補品の売上拡大  
(追補予定品)クロピドグレル、ナフトピジル等
- ・原価の低減





# 研究開発パイプラインの状況

# 新研究開発施設の開設について

## 「わたらせ創薬センター」を新設

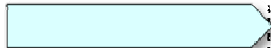
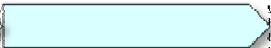
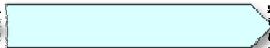










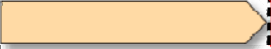



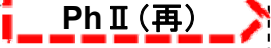
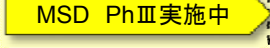





住所 : 栃木県下都賀郡野木町1848  
着工 : 2014年1月  
竣工 : 2015年5月予定  
開所 : 2015年7月予定



創薬研究体制を改革し、特定の疾患領域にフォーカスした新薬の創製を推進

# 開発パイプライン: 2014年度の進捗状況と2015年度の取り組み(予定)

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
呼吸器	フルティフォーム					13/11上市 56吸入 14/12上市 120吸入
	エクリラ ジェヌエア					15/3 承認 上市
	KRP-AB1102F					
	Ad-SGE-REIC	 Ph I / II				
感染症	KRP-AM1977X			 15/4 Ph III 開始		
	KRP-AM1977Y		 14/6 Ph II 開始			
耳鼻科	KRP-209			 Ph II (再)		
	( デスロラタジン MSDと共同販売契約締結 )			 MSD Ph III 実施中		
泌尿器	KRP-114V			 15/1 Ph III 開始		
IBD	KRP-203					



2014年度の進捗状況



2015年度の取り組み

# キノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X」「KRP-AM1977Y」

## 特徴:

①グラム陽性菌に対する優れた抗菌力、②標的臓器への移行性、③高い安全性が期待される

## 「KRP-AM1977X」 開発状況

### ●第Ⅱ相臨床試験 (終了)

試験 : 市中肺炎患者に対する有効性、安全性及び薬物動態の検討  
疾患名 : 軽症-中等症の市中肺炎  
用法用量 : 75mg/日または150mg/日を1日1回経口投与

### 結果

- ✓ 有効性、早期薬効評価も期待通りであった
- ✓ 安全性が高いことも確認された

### ●第Ⅲ相臨床試験 (2015年4月開始)

#### ◆呼吸器科領域

試験 : 市中肺炎患者を対象とした二重盲検比較試験

#### ◆耳鼻咽喉科領域

試験 : 副鼻腔炎患者を対象とした二重盲検比較試験

## 「KRP-AM1977Y」 開発状況

### ●第Ⅱ相臨床試験: (2014年6月開始)

試験 : 市中肺炎患者に対する有効性、安全性及び薬物動態の検討  
疾患名 : 軽症-重症の市中肺炎(マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎及びレジオネラ肺炎を含む)  
用法用量 : 投与開始日は150mgまたは300mg、2日目以降は75mgまたは150mgを1日1回点滴静脈内投与する

早期の申請・上市を目指す

# 遺伝子治療薬「Ad-SGE-REIC製剤」

## ■Ad-SGE-REIC製剤について

**特徴** : 岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。  
がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される。

**開発環境** : 産学共同実用化開発事業 (NexTEP)<sup>※1</sup>への採択  
条件及び期限付承認制度<sup>※2</sup> の創設(施行14年11月)

**開発状況** : 前臨床試験を実施し、薬理効果及び安全性を確認  
(2015年3月期第2四半期からの進展)

**今年度中の臨床試験(Ph I / II)開始を計画**  
【対象: 悪性胸膜中皮腫】

※1 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が、大学等の研究成果に基づくシーズを用いて企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を目指す事業

※2 再生医療等製品(遺伝子治療薬含む)に関しては、症例数が少ない場合でも有効性が推定され安全性が確認された場合、特別に条件・期限を付けて早期に承認を行う制度

2016年3月期  
連結業績予想と配当

# 2016年3月期 連結業績予想

(単位:億円)

	2015年3月期 実績	2016年3月期 予想	対前年	
			増減額	増減率(%)
売上高	1,131	<b>1,202</b>	+71	+6.3
医薬品事業	1,118	<b>1,186</b>	+68	+6.1
ヘルスケア(スキンケア)事業	13	<b>16</b>	+3	+18.5
営業利益	147	<b>160</b>	+13	+8.6
経常利益	155	<b>163</b>	+8	+5.2
当期純利益	121	<b>115</b>	-6	-4.7

		予想	対前年	増減のポイント
売上高 (医薬品事業)	国内新医薬品	<b>947</b>	<b>+36</b>	フルティフォームを中心に新薬群の売上増加を見込む
	海外新医薬品	<b>10</b>	<b>0</b>	【参考】現地売上:15年3月期 実績 \$32MM、16年3月期 予想 \$23MM
	後発医薬品	<b>182</b>	<b>+27</b>	自販による売上増加を見込む
営業利益		<b>160</b>	<b>+13</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶売上総利益 : 原価率は上昇するも、売上増加により前年を上回る見込み</li> <li>▶R&amp;D費 : 134億円を見込む(前年135億円)</li> <li>▶販管費(R&amp;D費除く) : 販売費、一般経費(特許等使用料等)の増加を見込む</li> </ul>

【参考】対前年のポイント: ①売上原価率は前年比で約1%上昇、②販管费率(R&D除く)は前年比で1%弱低下

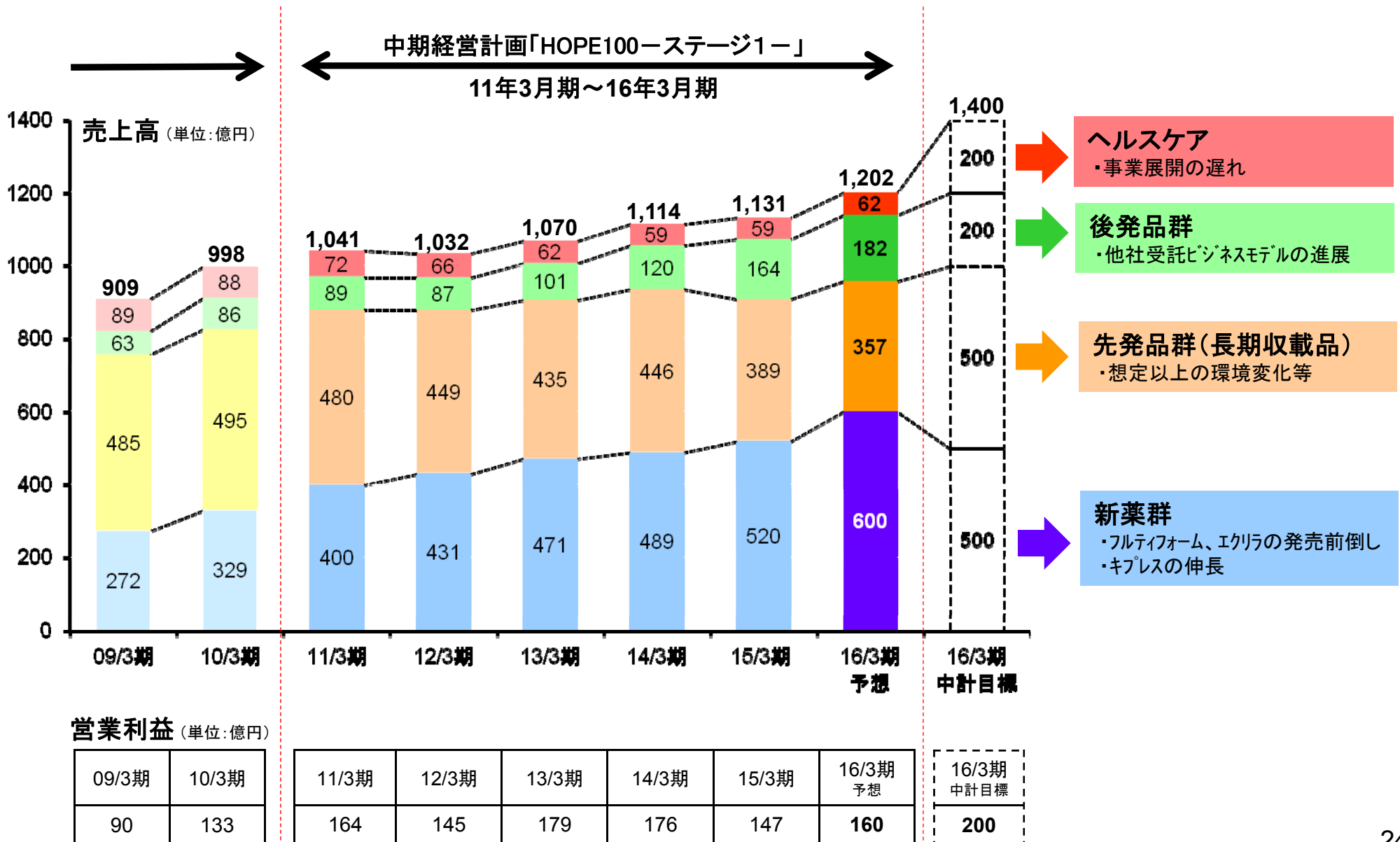
# 2016年3月期 主力製品の売上予想

(単位: 億円)

	2015年3月期 実績	2016年3月期 予想	対前年	
			増減額	前年同期比(%)
キプレス	412	<b>418</b>	+6	+1.5
フルティフォーム	36	<b>103</b>	+67	+185.4
ウリトス	73	<b>79</b>	+6	+9.4
ムコダイン	140	<b>118</b>	-22	-15.6
ペンタサ	172	<b>171</b>	-1	-0.3



# 中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」の進捗状況



# 株主還元について

## 基本方針

成長のための投資、事業継続のための投資、株主還元をバランスよく実施し、経営基盤の強化を図ります。株主還元は配当性向30%を目処に実施します。

## 当期純利益の推移

	2015年3月期 (予想)	2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (予想)
当期純利益	116億円	121億円	115億円

## 配当の推移

	2015年3月期 (予想)	2015年3月期 (実績)※	2016年3月期 (予想)
1株当たり配当金	52円 (うち中間20円)	52円 (うち中間20円)	52円 (うち中間20円)
連結配当性向	33.5%	32.2%	33.8%

※期末配当32円につきましては、5月25日に開催される取締役会で決定する予定です

# 参考資料

# 損益計算書の概要：連結①

(単位:百万円)

	14年3月期		15年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	111,400	100.0%	113,121	100.0%	+1.5	+1,721
医薬品事業	109,678	98.5%	111,771	98.8%	+1.9	+2,093
◆新医薬品	93,518	83.9%	92,111	81.4%	-1.5	-1,407
○国内	91,668	82.3%	91,079	80.5%	-0.6	-589
○海外	1,849	1.7%	1,032	0.9%	-44.2	-817
◆後発医薬品	11,987	10.8%	15,477	13.7%	+29.1	+3,490
◆一般用医薬品他	4,172	3.7%	4,183	3.7%	+0.3	+11
ヘルスケア事業	1,721	1.5%	1,349	1.2%	-21.6	-372

## <適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社8社： 杏林製薬(株)  
 Kyorin USA,Inc. Kyorin Europe GmbH  
 ActivX Biosciences,Inc.  
 キョーリンリメディオ(株)  
 キョーリンメディカルサプライ(株)  
 ドクタープログラム(株)  
 キョーリン製薬グループ工場(株)  
 持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

## <当期のポイント>

対前年

- 売上高 113,121百万円 (+1,721百万円)
- 国内新医薬品 91,079百万円 (-589百万円)
- |           | 14.3実績 |   | 15.3実績 | (億円)  |
|-----------|--------|---|--------|-------|
| ・キプレス     | 402    | ⇒ | 412    | (+10) |
| ・ムコダイン    | 184    | ⇒ | 140    | (-44) |
| ・ペンタサ     | 186    | ⇒ | 172    | (-14) |
| ・ウリトス     | 81     | ⇒ | 73     | (-8)  |
| ・フルティフォーム | 6      | ⇒ | 36     | (+30) |
- 海外新医薬品 1,032百万円 (-817百万円)
- |           |    |   |   |      |
|-----------|----|---|---|------|
| ・ガチフロキサシン | 15 | ⇒ | 6 | (-9) |
|-----------|----|---|---|------|
- 後発医薬品 15,477百万円 (+3,490百万円)
- \* 自販および他社受託ビジネスによる売上増
- 一般用医薬品等 4,183百万円 (+11百万円)
- ヘルスケア(スキンケア) 1,349百万円 (-372百万円)
- \* ドクタープログラムの売上減少

# 損益計算書の概要：連結一②

(単位:百万円)

	14年3月期		15年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	111,400	100.0%	<b>113,121</b>	100.0%	+1.5%	+1,721
売上原価	43,047	38.6%	<b>46,598</b>	41.2%	+8.2%	+3,551
売上総利益	68,352	61.4%	<b>66,522</b>	58.8%	-2.7%	-1,830
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	50,744 (11,359)	45.6% 10.2%	<b>51,785</b> <b>(13,514)</b>	45.8% 11.9%	+2.1% +19.0%	+1,041 +2,155
営業利益	17,607	15.8%	<b>14,737</b>	13.0%	-16.3%	-2,870
営業外収益	732	0.7%	<b>768</b>	0.7%	+4.9%	+36
営業外費用	59	0.1%	<b>16</b>	0.0%	-73.1%	-43
経常利益	18,281	16.4%	<b>15,490</b>	13.7%	-15.3%	-2,791
特別利益	237	0.2%	<b>4,505</b>	4.0%	+1799.4%	+4,268
特別損失	205	0.2%	<b>2,434</b>	2.2%	+1085.8%	+2,229
税金等調整前 当期純利益	18,312	16.4%	<b>17,561</b>	15.5%	-4.1%	-751
法人税・住民税 及び事業税	5,095	4.6%	<b>4,712</b>	4.2%	-7.5%	-383
法人税等調整額	1,191	1.1%	<b>785</b>	0.7%	-34.1%	-406
当期純利益	12,025	10.8%	<b>12,064</b>	10.7%	+0.3%	+39

## <当期のポイント>

### ◆原価率：前年比2.6ポイント上昇

(38.6%→41.2%)

【上昇要因】薬価改定(杏林製薬:本体薬価ベース6%台)、  
製品売上構成の変化(含む後発品の売上ウェイト上昇)

### ◆研究開発費率：前年比1.7ポイント上昇

(10.2%→11.9%)

\* 114億円→135億円(21億円増加)  
(KRP-114V契約一時金、開発パイプラインの進展)

### ◆販管費率(除くR&D費)：前年比1.6ポイント低下

(35.4%→33.8%)

\* 394億円→383億円(11億円減少)  
販売費等の減少

### ■営業利益 14,737百万円 (-2,870百万円)

\* 営業利益率は13.0%と2.8ポイント低下

### ■当期純利益 12,064百万円 (+39百万円)

### ■配当

52円00銭/株(うち、中間配当20円/株)

配当性向32.2%

# 貸借対照表の概要：連結

(単位：百万円)

	14年3月期末	
	実績	構成比
<b>流動資産</b>	121,638	71.8%
現金及び預金	31,017	—
受取手形及び売掛金	44,123	
有価証券	17,965	
棚卸資産	21,699	
その他流動資産	6,833	
<b>固定資産</b>	47,740	28.2%
有形固定資産	20,841	—
無形固定資産	1,198	
投資その他	25,700	
<b>資産合計</b>	169,378	100.0%

15年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
<b>129,064</b>	<b>70.4%</b>	<b>+7,426</b>
30,652	—	—
47,007		
17,867		
25,929		
7,607		
<b>54,318</b>	<b>29.6%</b>	<b>+6,578</b>
19,374	—	—
1,184		
33,760		
<b>183,383</b>	<b>100.0%</b>	<b>+14,005</b>

## <当期のポイント>

### ■ 流動資産：+7,426百万円

- ・現金及び預金の減少 ( -365百万円)
- ・受取手形及び売掛金の増加 (+2,884百万円)
- ・有価証券の減少 ( -98百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+4,230百万円)

### ■ 固定資産：+6,578百万円

- ・有形固定資産の減少 (-1,467百万円)
- ・無形固定資産の減少 ( -14百万円)
- ・投資その他の増加 (+8,060百万円)

### ■ 流動負債：-628百万円

- ・支払手形及び買掛金の増加 ( +203百万円)
- ・その他流動負債の減少 ( -831百万円)

### ■ 固定負債：+3,854百万円

<b>流動負債</b>	28,401	16.8%
支払手形及び買掛金	11,056	—
その他流動負債	17,344	
<b>固定負債</b>	3,155	1.9%
<b>負債合計</b>	31,557	18.6%
<b>株主資本</b>	135,273	79.9%
<b>その他の包括利益累計額</b>	2,548	1.5%
その他有価証券評価差額金	3,434	—
為替換算調整勘定	12	
退職給付に係る調整累計額	-898	
<b>純資産合計</b>	137,821	81.4%
<b>負債及び純資産合計</b>	169,378	100.0%

<b>27,773</b>	<b>15.1%</b>	<b>-628</b>
11,259	—	—
16,513		
<b>7,009</b>	<b>3.8%</b>	<b>+3,854</b>
<b>34,782</b>	<b>19.0%</b>	<b>+3,225</b>
<b>140,518</b>	<b>76.6%</b>	<b>+5,245</b>
<b>8,082</b>	<b>4.4%</b>	<b>+5,534</b>
7,798	—	—
168		
115		
<b>148,600</b>	<b>81.0%</b>	<b>+10,779</b>
<b>183,383</b>	<b>100.0%</b>	<b>+14,005</b>

# 主な業績項目の推移：連結

(単位:百万円)	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期 (予想)
売上高 (海外売上)	104,069 (2,784)	103,232 (2,015)	107,031 (2,400)	111,400 (1,849)	<b>113,121</b> <b>(1,032)</b>	<b>120,200</b> <b>(1,000)</b>
売上原価 (売上原価率)%	37,554 (36.1%)	36,926 (35.8%)	40,133 (37.5%)	43,047 (38.6%)	<b>46,598</b> (41.2%)	—
販売費及び一般管理費 (販管費率)%	50,071 (48.1%)	51,842 (50.2%)	48,949 (45.7%)	50,744 (45.6%)	<b>51,785</b> (45.8%)	—
うち研究開発費 (研究開発費率)%	12,495 (12.0%)	13,964 (13.5%)	11,059 (10.3%)	11,359 (10.2%)	<b>13,514</b> (11.9%)	<b>13,400</b> <b>(11.1%)</b>
営業利益 (営業利益率)%	16,443 (15.8%)	14,464 (14.0%)	17,948 (16.8%)	17,607 (15.8%)	<b>14,737</b> (13.0%)	<b>16,000</b> <b>(13.3%)</b>
経常利益 (経常利益率)%	17,110 (16.4%)	15,275 (14.8%)	18,676 (17.4%)	18,281 (16.4%)	<b>15,490</b> (13.7%)	<b>16,300</b> <b>(13.6%)</b>
当期純利益 (当期純利益率)%	10,927 (10.5%)	9,231 (8.9%)	12,422 (11.6%)	12,025 (10.8%)	<b>12,064</b> (10.7%)	<b>11,500</b> <b>(9.6%)</b>
一株当たり当期利益(円)	146.21円	123.54円	166.25円	160.95円	<b>161.63円</b>	<b>155.51円</b>
資本金	700	700	700	700	<b>700</b>	—
総資産	147,234	145,673	154,968	169,378	<b>183,383</b>	—
株主資本	112,076	117,931	126,985	135,273	<b>140,518</b>	—
純資産	111,706	118,201	129,099	137,821	<b>148,600</b>	—
一株当たり純資産(円)	1,494.83円	1,581.94円	1,727.86円	1,844.61円	<b>2,009.45円</b>	—
自己資本利益率%	10.1%	8.0%	10.0%	9.0%	<b>8.4%</b>	—
自己資本比率%	75.9%	81.1%	83.3%	81.4%	<b>81.0%</b>	—
人員(人)	2,294人	2,297人	2,444人	2,452人	<b>2,445人</b>	—
設備投資	1,668	1,952	6,576	6,500	<b>2,655</b>	<b>8,700</b>
減価償却費	2,458	2,363	2,738	3,153	<b>3,053</b>	<b>3,800</b>

# 2015年3月期 セグメント情報

## 報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	1,131	+17	147	-29
医薬品事業計	1,118	+21	146	-24
◆新医薬品	921	-14		
○国内	911	-6		
○海外	10	-8		
◆後発医薬品	155	+35		
◆一般用医薬品他	42	0		
ヘルスケア事業計	13	-4	0	-2
調整額	—	—	2	-3

(注)「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております



# 損益計算書の概要：杏林製薬一①

(単位:百万円)

	14年3月期		15年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	97,662	100.0%	<b>98,452</b>	100.0%	+0.8%	<b>+790</b>
医薬品事業	97,662	100.0%	<b>98,452</b>	100.0%	+0.8%	<b>+790</b>
◆新医薬品	89,846	92.0%	<b>88,852</b>	90.2%	-1.1%	<b>-994</b>
○国内	88,196	90.3%	<b>88,012</b>	89.4%	-0.2%	<b>-184</b>
○海外	1,650	1.7%	<b>840</b>	0.9%	-49.1%	<b>-810</b>
◆後発医薬品	4,821	4.9%	<b>6,404</b>	6.5%	+32.8%	<b>+1,583</b>
◆一般用医薬品他	2,994	3.1%	<b>3,195</b>	3.2%	+6.7%	<b>+201</b>

## <当期のポイント>

対前年

- 売上高 **98,452百万円** ( +790百万円)
- 国内新医薬品 **88,012百万円** ( -184百万円)
 

	14.3実績		15.3実績		(億円)
・キプレス	402	⇒	412	(+10)	
・ムコダイン	184	⇒	140	(-44)	
・ペンタサ	186	⇒	172	(-14)	
・ウリトス	81	⇒	73	(-8)	
・フルティフォーム	6	⇒	36	(+30)	
- 海外新医薬品 **840百万円** ( -810百万円)
 

・ガチフロキサシン	15	⇒	6	(-9)	
-----------	----	---	---	------	--
- 後発医薬品 **6,404百万円** (+1,583百万円)
 

・キョーリンリメディオ製品の売上増					
-------------------	--	--	--	--	--
- 一般用医薬品他 **3,195百万円** ( +201百万円)
 

・ミルトン	21	⇒	20	(-1)	
・ルビスタ	2	⇒	5	(+3)	

# 損益計算書の概要：杏林製薬②

(単位:百万円)

	14年3月期		15年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	97,662	100.0%	<b>98,452</b>	100.0%	+0.8%	<b>+790</b>
売上原価	35,119	36.0%	<b>38,951</b>	39.6%	+10.9%	<b>+3,832</b>
売上総利益	62,543	64.0%	<b>59,501</b>	60.4%	-4.9%	<b>-3,042</b>
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	47,175 (11,064)	48.3% (11.3%)	<b>47,349</b> <b>(12,843)</b>	48.1% (13.0%)	+0.4% +16.1%	<b>+174</b> <b>+1,779</b>
営業利益	15,368	15.7%	<b>12,151</b>	12.3%	-20.9%	<b>-3,217</b>
営業外収益	909	0.9%	<b>964</b>	1.0%	+6.1%	<b>+55</b>
営業外費用	46	0.0%	<b>0</b>	0.0%	-99.2%	<b>-46</b>
経常利益	16,230	16.6%	<b>13,115</b>	13.3%	-19.2%	<b>-3,115</b>
特別利益	235	0.2%	<b>4,505</b>	4.6%	+1810.4%	<b>+4,270</b>
特別損失	52	0.1%	<b>2,405</b>	2.4%	+4521.7%	<b>+2,353</b>
税引前当期純利益	16,414	16.8%	<b>15,215</b>	15.5%	-7.3%	<b>-1,199</b>
法人税・住民税 及び事業税	4,496	4.6%	<b>3,998</b>	4.1%	-11.1%	<b>-498</b>
法人税等調整額	1,094	1.1%	<b>804</b>	0.8%	-26.5%	<b>-290</b>
当期純利益	10,823	11.1%	<b>10,412</b>	10.6%	-3.8%	<b>-411</b>

## <当期のポイント>

◆原価率：前年比3.6ポイント上昇  
(36.0%→39.6%)

【上昇要因】薬価改定(杏林製薬:本体薬価ベース6%台)、  
製品売上構成の変化(含む後発品の売上ウェイト上昇)

◆研究開発費率：前年比1.7ポイント上昇  
(11.3%→13.0%)

\* 111億円→128億円(17億円増加)  
(KRP-114V契約一時金、開発パイプラインの進展)

◆販管費率(除くR&D費)：前年比2.0ポイント低下  
(37.0%→35.0%)

■営業利益 12,151百万円(-3,217百万円)

\* 営業利益率は12.3%と3.4ポイント低下

■当期純利益 10,412百万円(-411百万円)

# 貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位:百万円)

	14年3月期末	
	実績	構成比
<b>流動資産</b>	92,209	70.4%
現金及び預金	15,098	
売掛金	40,133	
有価証券	14,302	—
棚卸資産	17,969	
その他流動資産	4,705	
<b>固定資産</b>	38,788	29.6%
有形固定資産	13,992	
無形固定資産	385	—
投資その他	24,410	
<b>資産合計</b>	130,997	100.0%

15年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
<b>97,822</b>	<b>68.4%</b>	<b>+5,613</b>
<b>14,587</b>		
<b>43,220</b>		
<b>12,804</b>	—	—
<b>21,763</b>		
<b>5,447</b>		
<b>45,145</b>	<b>31.6%</b>	<b>+6,357</b>
<b>12,324</b>		
<b>376</b>	—	—
<b>32,444</b>		
<b>142,967</b>	<b>100.0%</b>	<b>+11,970</b>

<b>流動負債</b>	20,446	15.6%
支払手形及び買掛金	7,473	
その他流動負債	12,973	—
<b>固定負債</b>	944	0.7%
<b>負債合計</b>	21,391	16.3%
<b>株主資本</b>	106,211	81.1%
<b>評価・換算差額等</b>	3,394	2.6%
<b>純資産合計</b>	109,606	83.7%
<b>負債及び純資産合計</b>	130,997	100.0%

<b>20,958</b>	<b>14.7%</b>	<b>+512</b>
<b>8,323</b>		
<b>12,635</b>	—	—
<b>3,762</b>	<b>2.6%</b>	<b>+2,818</b>
<b>24,720</b>	<b>17.3%</b>	<b>+3,329</b>
<b>110,534</b>	<b>77.3%</b>	<b>+4,323</b>
<b>7,712</b>	<b>5.4%</b>	<b>+4,318</b>
<b>118,246</b>	<b>82.7%</b>	<b>+8,640</b>
<b>142,967</b>	<b>100.0%</b>	<b>+11,970</b>

## <当期のポイント>

### ■流動資産： +5,613百万円

- ・現金及び預金の減少 ( -511百万円)
- ・売掛金の増加 (+3,087百万円)
- ・有価証券の減少 (-1,498百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+3,794百万円)

### ■固定資産： +6,357百万円

- ・有形固定資産の減少 (-1,668百万円)
- ・無形固定資産の減少 ( -9百万円)
- ・投資その他の増加 (+8,034百万円)

### ■流動負債： +512百万円

- ・支払手形及び買掛金の増加 (+850百万円)
- ・その他流動負債の増加 (-338百万円)

### ■固定負債： +2,818百万円

# 主な業績項目の推移：杏林製薬

(単位:百万円)	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期 (予想)
売上高 (海外売上)	92,531 (2,642)	93,697 (1,904)	95,894 (2,277)	97,662 (1,650)	<b>98,452</b> <b>(840)</b>	<b>105,300</b> <b>(700)</b>
売上原価 (売上原価率)%	31,227 (33.7%)	32,046 (34.2%)	33,868 (35.3%)	35,119 (36.0%)	<b>38,951</b> <b>(39.6%)</b>	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	45,658 (49.3%)	47,679 (50.9%)	44,898 (46.8%)	47,175 (48.3%)	<b>47,349</b> <b>(48.1%)</b>	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	11,867 (12.8%)	13,472 (14.4%)	10,733 (11.2%)	11,064 (11.3%)	<b>12,843</b> <b>(13.0%)</b>	<b>12,700</b> <b>(12.1%)</b>
営業利益 (営業利益率)%	15,645 (16.9%)	13,971 (14.9%)	17,127 (17.9%)	15,368 (15.7%)	<b>12,151</b> <b>(12.3%)</b>	<b>13,300</b> <b>(12.6%)</b>
経常利益 (経常利益率)%	16,729 (18.1%)	15,126 (16.1%)	18,209 (19.0%)	16,230 (16.6%)	<b>13,115</b> <b>(13.3%)</b>	<b>13,800</b> <b>(13.1%)</b>
当期純利益 (当期純利益率)%	10,732 (11.6%)	9,274 (9.9%)	11,931 (12.4%)	10,823 (11.1%)	<b>10,412</b> <b>(10.6%)</b>	<b>10,000</b> <b>(9.5%)</b>
一株当たり当期利益(円)	144.51円	124.88円	160.66円	145.74円	<b>140.20円</b>	—
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	<b>4,317</b>	—
総資産	122,661	121,985	121,881	130,997	<b>142,967</b>	—
株主資本	95,719	101,652	100,586	106,211	<b>110,534</b>	—
純資産	95,573	102,177	102,844	109,606	<b>118,246</b>	—
一株当たり純資産(円)	1,286.87円	1,375.79円	1,384.77円	1,475.82円	<b>1,592.16円</b>	—
自己資本利益率%	11.2%	9.4%	11.6%	10.2%	<b>9.1%</b>	—
自己資本比率%	77.9%	83.8%	84.4%	83.7%	<b>82.7%</b>	—
人員(人)	1,804人	1,798人	1,797人	1,780人	<b>1,771人</b>	—
設備投資	1,019	1,425	1,507	4,763	<b>1,125</b>	<b>6,100</b>
減価償却費	1,968	1,790	1,743	1,743	<b>1,667</b>	<b>2,200</b>

# 2015年3月期実績と2016年3月期予想

(単位:百万円)

	14年3月期 (実績)	15年3月期 (実績)	16年3月期 (予想)	対前年	
				増減額	増減率(%)
売上高	111,400	113,121	<b>120,200</b>	+7,079	+6.3
医薬品事業	109,678	111,771	<b>118,600</b>	+6,829	+6.1
◆新医薬品	93,518	92,111	<b>95,700</b>	+3,589	+3.9
○国内	91,668	91,079	<b>94,700</b>	+3,621	+4.0
○海外	1,849	1,032	<b>1,000</b>	-32	-3.1
◆後発医薬品	11,987	15,477	<b>18,200</b>	+2,723	+17.6
◆一般用医薬品他	4,172	4,183	<b>4,500</b>	+317	+7.6
ヘルスケア事業 (スキンケア)	1,721	1,349	<b>1,600</b>	+251	+18.5
営業利益	17,607	14,737	<b>16,000</b>	+1,263	+8.6
経常利益	18,281	15,490	<b>16,300</b>	+810	+5.2
当期純利益	12,025	12,064	<b>11,500</b>	-564	-4.7

# 主な子会社の業績と予想

(単位:億円)

杏林製薬	14年3月期	15年3月期
売上高	977	985
営業利益	154	122
当期純利益	108	104

16年3月期(予想)
1,053
133
100

キョーリン リメディオ	14年3月期	15年3月期
売上高	124	164
営業利益	10	21
当期純利益	6	15

16年3月期(予想)
185
23
16

ドクタープログラム	14年3月期	15年3月期
売上高	18	14
営業利益	2	0
当期純利益	2	0

16年3月期(予想)
16
0
0

# 2015年3月期 主要製品売上の状況

(単位:億円)

		11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期		16年3月期 (予想)
						実績	前同比(%)	
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	345	368	396	402	412	+2.7	418
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	213	215	191	184	140	-23.7	118
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	194	180	176	186	172	-7.4	171
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	55	63	75	81	73	-9.5	79
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	40	34	30	28	21	-25.5	17
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	—	—	—	6	36	+518.9	103
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	22	17	16	15	6	-57.8	4
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	19	19	20	21	20	-3.2	20

# 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況(連結) *Kyorin*

健康はキョーリンの願いです。

(単位:百万円)

	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期		16年3月期 (予想)
					実績	増減比	
研究開発費	12,495	13,964	11,059	11,359	13,514	+19.0%	13,400
設備投資	1,668	1,952	6,576	6,500	2,655	-59.2%	8,700
減価償却費	2,458	2,363	2,738	3,153	3,053	-3.2%	3,800

## 設備投資の詳細 (実績/予想)

(単位:億円)

	14年3月期 (実績)	15年3月期 (実績)	16年3月期 (予想)
工場設備	19	15	29
管理・販売設備	7	3	8
研究用設備	39	8	50



# 開発品一覧①(2015年5月13日現在)

## PhⅢ ~承認

※:前回(2015年3月期 第3四半期 2月2日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
※承認 (15年3月)	(欧州) アストラゼネカ社 : 上市(12年9月) (米国) アストラゼネカ社 : 上市(12年12月)	KRP-AB1102 (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	アセチルコリン受容体拮抗作用によりCOPDに伴う呼吸困難、息苦しさなどの諸症状を改善する長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(アクリジニウム) ①全身性副作用が少ない ②1日2回投与により1日を通じて症状、呼吸機能改善 ③最大効果発現までの時間が短い ※吸入器: Genuairを使用	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)
PhⅢ (13年8月)	(欧州) アストラゼネカ社 : 上市(15年1月) (米国) アストラゼネカ社 : 申請準備中	KRP-AB1102F (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA: アクリジニウム)と長時間作用性 $\beta$ 2刺激薬(LABA: ホルモテロール)の配合剤	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)
PhⅢ (15年1月)	(米国、欧州、他) 米国メルク社 : PhⅡ終了	KRP-114V	過活動膀胱	米国 メルク社	膀胱の $\beta_3$ 受容体に作用する事で、膀胱弛緩作用を増強し、頻尿の改善が期待される	米国メルク社とライセンス契約 (14年7月)
※PhⅢ (15年4月)		KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	

# 開発品一覧②(2015年5月13日現在)

## POCプロジェクト(Ph I ~Ph II)

※:前回(2015年3月期 第3四半期 2月2日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (11年8月)	Ph III メルツ社	KRP-209	耳鳴	ドイツ メルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	メルツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph II (13年3月)	Ph II (POC) (10年12月) ノバルティス	KRP-203	自己免疫疾患 臓器移植 IBD	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティスとライセンス契約 (06年2月) 新たなライセンス契約 IBD(10年11月)
Ph II (14年6月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	

## 参考

開発段階	一般名	薬効	特徴	備考
MSD(株)が開発中(Ph III)	デスロラタジン	アレルギー性鼻炎 蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症)に伴うそう痒	第二世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬	MSD(株)の関連会社と日本国内における共同販売契約を締結(14年11月)

## ■将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。